

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 7 月 9 日 (2015.7.9)

【公開番号】特開 2014-27423 (P2014-27423A)

【公開日】平成 26 年 2 月 6 日 (2014.2.6)

【年通号数】公開・登録公報 2014-007

【出願番号】特願 2012-165137 (P2012-165137)

【国際特許分類】

H 0 4 N 9/68 (2006.01)

H 0 4 N 9/45 (2006.01)

H 0 4 N 9/04 (2006.01)

H 0 4 N 5/225 (2006.01)

G 0 6 T 1/00 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 N 9/68 1 0 1 A

H 0 4 N 9/45 1 0 1 A

H 0 4 N 9/04 B

H 0 4 N 5/225 A

H 0 4 N 5/225 F

G 0 6 T 1/00 3 4 0 A

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 5 月 25 日 (2015.5.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 0 】

図 8 ( A ) で示す例ではベクトルスコープ 3 0 1 上の肌色成分 3 0 2 の位置と肌色領域検出マーカー 3 0 3 の位置が異なっている。この状態では人物の肌にスキディテールがかからない。そこでユーザは肌色領域設定メニューから『色相』の設定と、『色の濃さ』の設定と、『色領域の範囲』の設定を行い、ベクトルスコープ 3 0 1 上の肌色成分 3 0 2 の位置に肌色領域検出マーカー 3 0 3 の位置を合致させる必要がある。具体的には、肌色領域設定メニューから『色相』の値を「 4 」から「 5 」へ、「 5 」から「 6 」へと変更すると、図 8 ( B ) に示すように肌色領域検出マーカー 3 0 3 が反時計回りに移動する。このように肌色領域検出マーカー 3 0 3 の表示位置は、『色相』の数値の変更により、『色の濃さ』の数値により特定されるベクトルスコープ 3 0 1 の中心との距離を維持したまま、ベクトルスコープ上での位相が変更される。そして『色相』の値を「 6 」と設定した結果、図 8 ( B ) に示すように被写体の肌色成分 3 0 2 と肌色領域検出マーカー 3 0 3 の位相が合致する。図 8 ( B ) では、このときの『色相』、『色の濃さ』、『色領域の範囲』の各設定値を ( 6 , 6 , 6 ) として表している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 4 】

肌色領域検出マーカー 3 0 3 で設定した結果は、たとえばゼブラパターンによりユーザ

に明示してもよい。ゼブラパターンとは、肌色領域検出マーカーの範囲に含まれる画素で特定される領域を画像において斜線で示したものである。図9（A）及び（B）はゼブラパターンの表示例を示す。画像901は、照明条件の影響により被写体の肌色の色味が場所によって異なっているものと仮定する。また、斜線領域902は被写体に重畳されたゼブラパターンを示す。『色領域の範囲』を狭く設定すると、図9（A）に示すように一部の領域にゼブラパターン902がかからなくなる。これに対して図9（B）のように『色領域の範囲』を広く設定して、被写体全体にゼブラパターン902がかかるようにすることができる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】図面

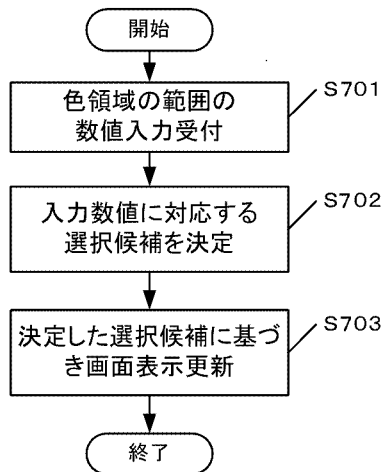
【補正対象項目名】図7

【補正方法】変更

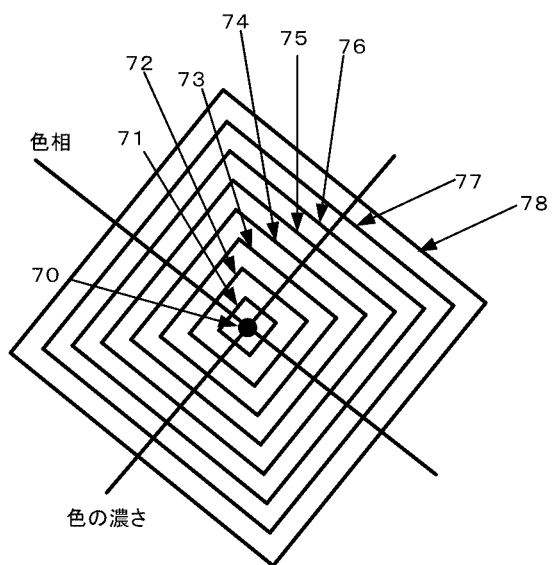
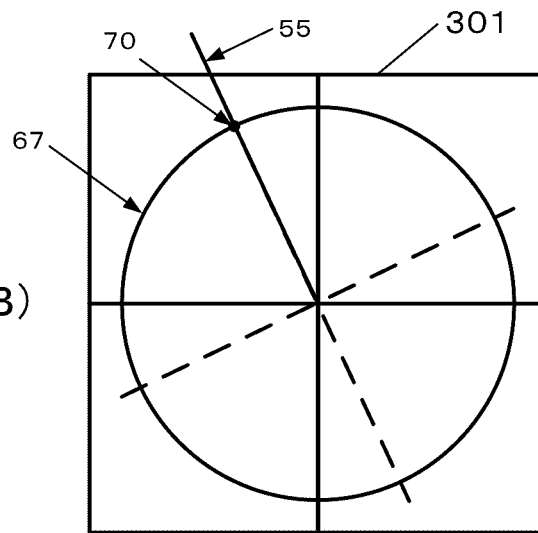
【補正の内容】

【図 7】

(A)



(B)



(C)